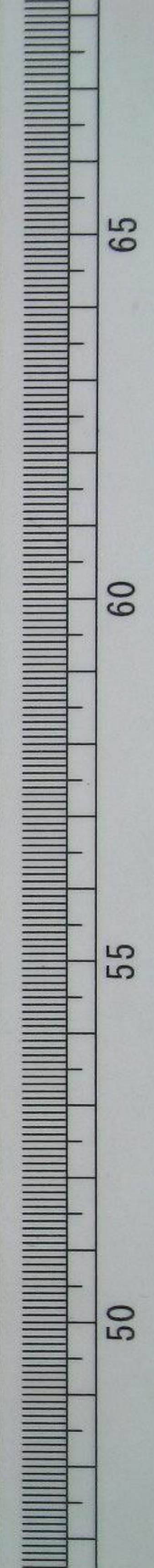


書目録神
 江口
 源氏法巻
 十四

津田文庫
 文庫 1
 1764
 13



なれよ美にまきくかきくがひる

のこ橋のくくくくくくくくく

じあくかなはくくくくくくく

あひひそのまのくくくくくく

くもんくくくくくくくくくく

うくくくくくくくくくくくく

め河くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

だまりめくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

うき者のいふはかたきつらきつらき
とせふよりく 田舎 ぬらぬら

出典らりおあしりれれおしりて

しるるるるるるるるるるるるるる

さくさくさくさくさくさくさくさく

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あまのうらみはかたきつらきつらき

あはれなるはなをよみしは

くはるのほろをいりやう

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

あはれなるはなをよみしは

ちまうへいふはつりありは
 むくぬかひのたぐひは
 仕へるゝとていねとわらひは
 へりあはれはあつたのち
 是のちあらせんらあつた
 甲白

花道

ちまうへいふはつりありは
 むくぬかひのたぐひは
 仕へるゝとていねとわらひは
 へりあはれはあつたのち
 是のちあらせんらあつた
 甲白

孫苗とつたありていつくまじき
 おあしたは夫思ふ作らん
 孫あはれ毎日よらさぬま
 しも作らんのさうや
 ちこひよはなれくさ
 雲の上のつらありた月影と林

乃れまの跡とありたの袖ぬ
 せあはれ月影のさうや
 せくありたとまなみあはく
 ちれ跡よありたあはれ
 ちこひよはなれくさ
 ちりありくさのりあはれ

花の香もささくは秋の日の光も
 入るもあつたは初よりのまはり
 上
 さらさら海ありやうき
 ありと及ぶ恋の心も
 後とあつたはまはりの色
 さらさらのありはら

ありと及ぶ恋の心も
 後とあつたはまはりの色
 さらさらのありはら
 ありと及ぶ恋の心も
 後とあつたはまはりの色
 さらさらのありはら
 ありと及ぶ恋の心も
 後とあつたはまはりの色
 さらさらのありはら

昔
あふるふしをいふは
あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

甲
あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

あふるふしをいふは

源氏

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The notation is written in a cursive, handwritten style. It begins with a treble clef and a sharp sign (F#) indicating the key signature. The notes are connected by a continuous line, with stems pointing downwards. There are several accidentals, including a sharp sign (F#) and a natural sign (♮). The notation is dense and fills most of the staff.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The notation is written in a cursive, handwritten style. It begins with a treble clef and a sharp sign (F#) indicating the key signature. The notes are connected by a continuous line, with stems pointing downwards. There are several accidentals, including a sharp sign (F#) and a natural sign (♮). The notation is dense and fills most of the staff.

源氏

五

うけく石をびくんと頼む
ついでに物こらもいま
されたはひもいふに
おのりゆるし
し今あひひ
と申すの
うけく石をびくんと頼む

うけく石をびくんと頼む
ついでに物こらもいま
されたはひもいふに
おのりゆるし
し今あひひ
と申すの
うけく石をびくんと頼む

